





### 横浜ゴム株式会社 CSRレポート

#### Contents

目次•編集方針	01
会長ごあいさつ	02
社長メッセージ	03
横浜ゴムの主な製品	05
中期経営計画 GD2020	07
安全と防災の取り組み	08
CSRスローガン「未来への思いやり」	09
コーポレートガバナンス	11
製品を通して	13
環境貢献商品	13
3R推進の取り組み	15
品質・サービス向上の取り組み	17
地球環境のために	19
千年の杜への取り組み	19
持続可能なサプライチェーン	21
省エネ・自然エネルギーへの取り組み	25
人とのつながり	27
多様な働き方への取り組み	27
誰もが働きやすい職場づくり	29
地域社会と共に	31
地域の安全に貢献	31
地域の暮らしに貢献	33
会社概要/財務指標	35
外部評価	37
第三者意見の概要	38



#### 企業理念 -

# 心と技術をこめたモノづくりにより、 幸せと豊かさに貢献します。

#### 経営方針 —

- 技術の先端に挑戦し、新しい価値を創り出す
- •独自の領域を切り拓き、事業の広がりを追求する
- 人を大切にし、人を磨き、人が活躍する場をつくる
- 社会に対する公正さと、環境との調和を大切にする

#### 行動指針 ——

----- 企業スローガン ----

- 自らを鍛え、自己ベストに挑戦する
- たがいに信頼し合い、ぶつかり合い、高め合う
- 外に向けて 開かれた心を育てる

### 「すごいをさりげなく」

- CSRスローガン —

#### 「未来への思いやり」

#### 編集方針

横浜ゴムグループは、「社会からゆるぎない信頼を得ている地球貢献企業」を 目指し、社会課題の解決に取り組んでいます。本レポートは、当社グループのポリシーやCSRへの考え方、方向性、具体的取り組み、パフォーマンスを、全てのステークホルダーの皆さまに分かりやすくお伝えするために作成したものです。 また、詳細をCSRウェブサイト(GRIスタンダード版)、有価証券報告書ならび

にアニュアルレポートにてご報告いたします。併せてご覧ください。

対象期間 : 2017年1月1日~2017年12月31日

(報告の一部に、2018年1月以降の活動も含みます)

発行情報 : 発行日2018年8月(年1回発行)

※CSRウェブサイトは10月更新予定です。

# ごあいさつ



2017年、横浜ゴムは創立100周年という大きな節目の年を迎えました。同年を最終年度とし、2006年度よりスタートした中期経営計画グランドデザイン100 (GD100)では、安定的な成長を遂げ、確かな軌跡を残してくることができました。GD100を振り返って思うのは、ステークホルダーの皆さまに安心感を持っていただける事業運営がいかに大切かということです。質の高いモノづくりはもちろん、環境・社会との調和や公正さを追求するESG (環

境・社会・ガバナンス)の取り組みは当社の基盤であり、今後も本業の中で継続していかなければなりません。

そうした考えのもと、2017年にはCSRスローガン「未来への思いやり」を制定しました。これは、お客さまや仕入先、地域社会、地球環境などあらゆるステークホルダーとの共存共栄を目指す、未来に向けた私たちの決意を表したものです。「思いやり」は言葉にするのではなく、行動に示すことが大事です。グローバル展開を続ける上でも、この姿勢はいっそう厳しく問われています。

重要なのは、従業員一人一人が日々の業務の延長線上にCSRを考えていくことです。 今日国際社会で重視されるSDGs (持続可能な開発目標) との関わりもますます重要になってまいります。自らの仕事がどのように貢献しているか、「自分事」として理解を深めなければなりません。例えば環境にやさしいモノづくりへの要請は高まっていますが、これを単に顧客ニーズと捉えるのではなく、大きな変化の予兆と捉え、グローバルな環境課題として真摯に向き合っていくことが大切です。

これらの行動を通し実践することで、横浜ゴムが社会から信頼をいただき、次の 100年も成長を続けていけるよう、全社での意識を高め、着実に歩んでいきます。

代表取締役会長

# 南雲 忠信



社長メッセージ

創立101年目に入り 次の100年に向けて

代表取締役社長山石昌孝

#### 創立100周年を振り返って

2017年10月13日、横浜ゴムは創立100周年を迎えました。 記念式典では苦楽を共にしてきたステークホルダーの皆さま に感謝をお伝えし、また、励ましの言葉をいただきました。

我々の会社が創立されたのは、第一次世界大戦の最中です。その後の関東大震災や世界恐慌、そして第二次世界大戦という大きな苦難を乗り越えて、100年間守ってきていただきました。一生懸命やってきていただいた先人の方々に対して感謝するとともに、新たなものを作り上げ、守り続けるという「創業守成」の精神を今後も引き継いでまいります。

当社は、2006年から2017年までの間、中期経営計画グランドデザイン100 (GD100)に取り組んできました。その結果、2005年と比較すると、売上高は約50%増加、営業利益は300億円増加、時価総額は2倍に、営業利益率も3ポイント改善することができました。販売における海外比率が上昇する中、2017年度には環境貢献商品100%を達成するなどの技術向上の成果を得られたことがこの間の特徴としてあげられます。

#### 中期経営計画GD2020について

101年目の本年から、2020年までの中期経営計画グランドデザイン2020 (GD2020) をスタートさせました。GD2020では、投資を回収し、その結果として成長していくという、ある意味、事業活動において当たり前のことに誠実に取り組みます。

自動車業界は、中長期的に見ると自動運転などの技術革新によって大きく変化していくものと考えています。ただし一方で、世界的に見てプレミアムカーの需要が高まっており、これに装着するプレミアムタイヤの市場が広がっています。消費財タイヤについては、ヨコハマの強みを活かした付加価値の高いタイヤを製造し、このカテゴリーの要求にきちんと応えていきたいと考えています。そのために当社の強みである環境性能、そして「より高速に、より快適に」を追求しつつも、安心して使用できるとの信頼を獲得してまいります。さらには、デジタル・マーケティングを活用して、お客さまと直接つながり、お客さまのニーズにマッチした製品を提案していきます。

一方、生産財タイヤは、当社の各工場、当社グループのアライアンスタイヤグループ、愛知タイヤ工業それぞれが強みを持っています。この強みを活かし、さらなる増収を目指します。

タイヤ以外の非タイヤについても、これまで当社は「マルチプルビジネス (MB)」としてひとくくりにしていましたが、それぞれの事業の強みとお客さまのニーズを緻密に見極め、それぞれの事業で増益を実現してまいります。

特に強調したいのは、これらの事業活動の根本に「安全」「品質」「コンプライアンス」の順守を置いているということです。この「安全」「品質」「コンプライアンス」をないがしろにして、社会そして多くのステークホルダーから信頼を得られる事業活動はあり得ません。

2017年には、ヨコハマタイヤフィリピンでの火災や重大災害を発生させ、多くの関係者の方々にご心配をおかけいたしました。作業時に何か問題が起こったら、基本である「止める」「呼ぶ」「待つ」を徹底すること、安全な環境を整備すること、そして何かあったら拡大を抑制し復旧を迅速に進めることができるよう、全員で点検を行い、体制を再構築しております。

そのために、社長である私が従業員一人一人に直接メールで「安全」「品質」「コンプライアンス」の重要性を語りかける、トップメッセージの発信、経営層が工場などの現場を回り、リスクをつぶしていくトップダウンの施策、各従業員の自発的な取り組みを促すボトムアップの施策など、さまざまなアプローチを組み合わせて取り組んでまいります。



全社安全防災大会で講演

#### 横浜ゴムらしく、

#### 国際的な課題解決と社会的責任を果たす

GD2020を進める中で、お客さまの要請に応え、社会の発展に尽くしていくことが、次の100年のさらなる成長につながると考えています。

そのために、多様な人材が活躍できる職場環境の整備を進めています。またグローバルにも現地の人材を積極的に登用してまいります。

「横浜ゴムらしさ」とはステークホルダーの方々に寄り添い、各国の地域とともに成長していくこと。次の100年においてもステークホルダーの皆さまと喜びを分かち合うことができるよう、全員が一丸となって、国際的な課題の解決と社会的責任を果たしてまいります。

# 横浜ゴムの主な製品

#### 自動車関連

#### 乗用車用タイヤ



スポーツカー、セダン、SUV、ミ ニバンなどさまざまな車種に合 わせたラインナップをそろえてい ます。

その中でも、新商品ADVAN dB は『車内の空気感を変える、かつ てない静粛性\*1』をコンセプトに 開発されたプレミアムコンフォート タイヤです。

#### トラック・バス用タイヤ



経済性、耐久性、安全性などの 基本性能はもとより、季節や路面 状況などの使用条件にマッチした ラインアップをそろえています。

トラック・バス用タイヤ710Rは 耐摩耗性能と耐偏摩耗性能を大 幅に向上させ、空荷時の安全性の 改善を目指しました。

#### 建設機械・産業機械用タイヤ



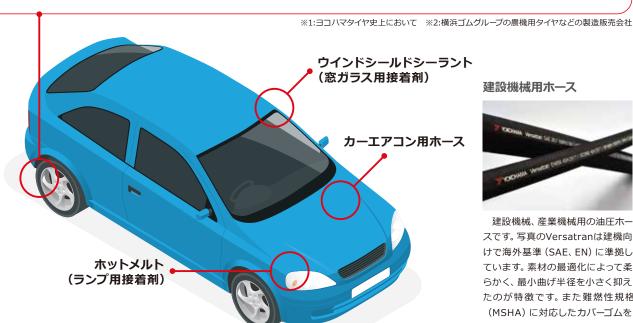
超大型ダンプトラックや土砂の 地ならしをするスクレーパ、土砂 を運ぶホイールローダ、排土作業 を行うドーザなどのタイヤをそろ えています。建設・鉱山用リジッド ダンプトラック用タイヤRB42は 軟弱地、泥ねい地において優れた 耐摩耗性とトラクション性を発揮 します。

#### 農業機械・林業機械用タイヤ



アライアンスタイヤグループ\*2が 製造販売するトラクタなど農業機 械や林業機械に使うタイヤです。

FarmPro IIはトラクタ用ラジア ルタイヤとして新たに設計され、 快適な乗り心地を確保しつつ、優 れた排泥性・高いトラクション性 能も両立しています。



#### 建設機械用ホース



建設機械、産業機械用の油圧ホー スです。写真のVersatranは建機向 けで海外基準 (SAE、EN) に準拠し ています。素材の最適化によって柔 らかく、最小曲げ半径を小さく抑え たのが特徴です。また難燃性規格 (MSHA) に対応したカバーゴムを 採用しています。

#### こんなに違うタイヤの大きさ(外径)



49~70cm

乗用車用タイヤ 農業機械・林業機械用タイヤ 52~216cm

トラック・バス用タイヤ 84~108cm

建設機械・産業機械用タイヤ 6~355cm

※外径6cmのタイヤは台車に使われています。

#### 石油、鉱業、建築、航空宇宙、スポーツ関連

#### 建築用シーリング材



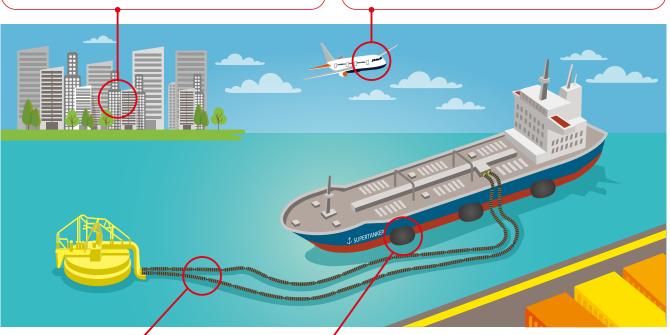
建物の機密性や防水のため構造物の隙間に充填する素材です。新商品の「Hamatite SC-DM2」は、コンクリートやタイルなどの床目地(土間目地)用のポリサルファイド系シーリング材で、従来品よりも硬化が速く、工期の短縮を可能にしました。硬度も高く、また、独自の配合技術を用いた耐候性や耐油・耐薬品性にも優れた商品です。

#### 航空機用部材(飲料水タンク)





航空機用の飲料水タンクです。継ぎ目なく成形されたインナーライナーの上から、エポキシなどの樹脂を含浸させたガラス、カーボン繊維などの糸を巻きつけて製作し、かつ軽量で高い耐圧カ/耐加速度性能を実現。米国FDA、NSF-61など、飲料水に適合した材料により製造されています。



#### マリンホース



沖合のタンカーと陸上の設備とをつなぎ原油を輸送するためのホースです。海の中という特殊な環境に設置され、台風などの嵐の海にも耐える耐久性が要求されるため設計には豊富な経験と高い技術力が必要です。マリンホースを設計・製造できる会社は、世界でも数える程しかありません

#### 防舷材



現在、世界中で広く使用されている空気式防舷材は、横浜ゴムが開発しました。2003年に初めて国際規格化された規格に適合した製品を製造販売、2017年には世界最大となる直径6mの空気式防舷材を開発。"世界初"に拘っています。

→ p.14

#### ホース



各種工作機器向けの高圧ホースを販売しています。地盤改良用の水・グラウトホース「GTシリーズ」は最高使用圧力42MPaの「GT420」を追加。超高圧性に優れたホース構造と外傷対策として耐摩耗性の高いホースカバーを採用しました。

#### ゴルフ用品



(株)プロギア\*のゴルフ用品は優れた設計技術と航空・宇宙分野で培われた素材技術を駆使しています。「Q(キュー)」は、悪いライからのショットなどの窮地を救い、ゴルフをより楽しく、さらにスコアアップを実現する新発想の新クラブ。アマチュアゴルファーのスコアアップに貢献するオールラウンドギアです。

※横浜ゴムグループのスポーツ用品製 造販売会社



横浜ゴムグループは、GD100の12年間でグローバル展開を推進し、着実に成長してきました。次のステップとして、2018年度より中期経営計画GD2020をスタートしています。当社グループの強みを再定義し、独自路線を強めた各事業の成長戦略を通じて経営基盤を強化することで、2020年代のさらなる飛躍に備えます。

#### 成長戦略

当社独自の特性コントロール技術とグローバル開発体制により、卓越した性能と品質を作り出す技術戦略ならびにグローバルでYOKOHAMAブランドを強化していくブランド戦略を進め、各事業分野における成長戦略に取り組みます。

#### タイヤ消費財事業

プレミアムタイヤ市場 における存在感のさら なる向上

#### タイヤ生産財事業

OHT\*を成長ドライ バーとして次の100年 の収益の柱へ

#### MB事業

得意分野への 資源集中

※OHT: オフハイウェイタイヤ (農業機械用タイヤ、建設車両用タイヤ、産業車両用タイヤ、 林業機械用タイヤなどの総称)



#### 経営基盤の強化

経営基盤の強化策としては、有利子負債の削減や資産圧縮等の財務体 質強化、企業風土の変革、リスクマネジメントなどの施策を進めます。

#### 企業風土の変革

CSRでは、「未来への思いやり」をコンセプトに、あらゆるステークホルダーに向けて、事業活動を通じた価値を創造していきます。また人事施策として、人的資源の活用と育成による組織の活性化を目指し、多様な人材が働きやすい環境の整備や制度の導入を進めています。

#### コーポレート・ガバナンスの強化

国内外において、ガバナンスの強化を図っていきます。

#### グローバルでのガバナンス

- ✔ 地域統括会社の持株会社化推進 (海外子会社のガバナンス強化)
- ✔ 地域統括会社への内部監査人配置を推進 (子会社への監査体制強化)
- ✔ グローバル内部通報制度の導入による問題の早期発見と未然防止

#### 原材料エネルギー水等

- 労働安全衛生 地球環境
- 研修および教育 従業員 地域
- 多様性と機会均等
- サプライヤーの 人権等の評価
- 児童/強制労働等の禁止
- 地域社会・地域コミュニティ等ステークホルダー・顧客の安全衛生
- ま お客さま ・製品およびサービスの ラベリング ・マーケティング

• 地域での存在感

投資家さま
コミュニケーション等

• 経済的パフォーマンス等

#### 役員制度改革によるガバナンス

- ✓ 譲渡制限付株式報酬制度の導入
- ✓ 社外取締役の増員と社内取締役の減員

#### リスクマネジメント

CSR会議を筆頭にリスクマネジメント委員会、中央安全衛生委員会、コンプライアンス委員会などの委員会や会議体を設置し、企業が 直面するさまざまなリスクを組織的に管理し、最小化しています。



中期経営計画GD2020についての詳細は当社コーポレートサイトの「株主・投資家の皆様へ」(http://www.y-yokohama.com/cp/ir/)をご覧ください。

### 安全と防災の取り組み

2017年5月14日、ヨコハマタイヤフィリピンにおいて、火災事故が発生しました。お客さま、近隣にお住まいの皆さまをはじ めとする関係者の皆さまに多大なるご迷惑とご心配をおかけしましたことを、改めて深くお詫び申し上げます。

当社グループは、同様の事故を発生させないよう、全社一丸となって抜本的火災対策を着実に積み重ねてまいります。

#### 火災の概要

■発生日時:2017年5月14日(日曜日)

15:00頃(現地時間) 同23:00頃に鎮火

■被災面積:東工場の北東エリア約17,400㎡

■被災内容:建屋および生産設備の一部損傷、倉庫内商品の焼失など

消火活動に伴う軽傷者2名



内が 被災エリア

#### 火災の再発防止策

当社は、火災の原因となり得る事項を一つずつ検証の上、それらに 対して抜本的対策を行っています。さらに、より早期に火災を発見、消 火するための仕組みを策定、世界各地の生産現場に展開しています。 そして、消火設備の点検・火災訓練を繰り返し、二度と同様の火災を 発生させないよう取り組んでいきます。



#### 安全面の取り組み強化

安全面においては、安全で働きやすい職場づくりと健康づくりを目 指してさまざまな取り組みを行っていますが、災害ゼロには至ってい ないのが現状です。

対策として、国内外の全生産拠点に対して、機械に挟まれたり巻き 込まれたりするところはないか、転落するところはないかなど、災害 に結びつくような危険を見つけ、対策するための設備の総点検を行っ ています。この設備総点検には経営層が主体的に関与し、強いリー ダーシップのもと、危険な設備を徹底的に洗い出し、改善に取り組ん でいます。

また、従業員自ら危険を予知し、対策できるよう、危険に対する感 度を高める「危険体感訓練」も拡大しています。

さらに、安全な行動ができる・安全な職場づくりができる人を育て るために、「風土・マインドの改革 - 草の根活動で安全意識の定着」 にも取り組んでいます。安全グッズの配布や始業前に全員で安全唱和 を行い、日ごろから安全に対する意識の向上を図っています。



安全唱和

安全ストラップの配布



#### 主な危険体感訓練の強化内容

- ●訓練内容の拡大:三島工場、YTMT\*をはじめ体感 訓練機の種類・教材の増加(質の向上)
- 2訓練実施回数を拡大
- ③訓練実施拠点を拡大:国内外主要工場には全て 設置済み。拡大を検討

#### 期待する効果

- **①**さまざまなタイプの危険に対する感度を磨く
- ②危険感度の維持・向上

※ヨコハマタイヤ・マニュファクチャリング・タイ

# CSRスローガン「未来への思いやり」

横浜ゴムは、中期経営計画GD2020において、世界各地でその土地に根差した企業活動を展開できる「世界企業」を目指していかなければならないと考えています。そして、「未来への思いやり」のスローガンのもと、事業活動を通じた価値を創造していきます。



#### SDGsについて

SDGs (Sustainable Development Goals=持続可能な開発目標)は、2015年9月に国連持続可能な開発サミットにおいて193カ国の全会一致により採択された2030年までに達成すべき世界共通の目標です。2030年までに、市民や行政、企業等世界中の全ての人が一丸となり、貧困の撲滅や自然環境の保全など、世界が持続可能な発展を実現するための指針であり、17のゴールと169のターゲットを定めています。

## SUSTAINABLE G ALS 世界を変えるための17の目標



GOALS

#### 未来への思いやりとSDGsの関連



#### コーポレートガバナンス

国際的な規範や協調に沿って、持続的な事業活動を 継続する基盤をつくります ガバナンス、コンプライアンス、事業継続に資する 活動を行います









#### 製品を通して

安心して生活できる未来に向けた製品やサービスを 追求していきます







#### 地球環境のために

豊かな自然を残すために、事業活動を通して 環境課題に取り組みます



















#### 人とのつながり

多様な人材が安心して活躍できる 職場や社会をつくります









#### 地域社会と共に

地域と共に発展するため、多様なコミュニケーションと 地域問題に取り組みます













#### 社内へのSDGsの啓発

当社では、入社や昇格などのさまざまなステップで人事研修を行っています。その中でCSRに関する研修は重要な位置を占めています。新入社員時、入社5年後程度、管理職への昇格前後、海外赴任前など、従業員のライフコースの重要なステップでそれぞれに求められるCSR課題を理解し、業務に反映していけるような研修を行っています。

2018年度に実施した新入社員研修では、ほとんどの参加者が「SDGs」を聞いたのが初めてという中、グループワークを行うことで、事業活動を通してSDGsに取り組むことの重要性の理解と当社CSRの取り組みについての理解を深めました。



新入社員研修でのSDGsグループワーク



# グローバル化する社会的課題に 正しく対処するための

# 基盤を強化します

#### 2018年度のガバナンス強化のポイント

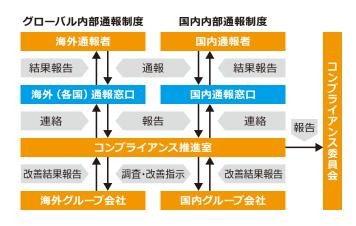
- ・ 社外取締役の増員と社内取締役の減員
- ・ 女性監査役の選任、外国人執行役員の 登用による役員の多様化の強化
- ・ 譲渡制限付株式報酬制度の導入

#### コーポレート・ガバナンス体制の強化

横浜ゴムは、さらなる経営基盤強化に向けて、2017年に情報収集や議論、意思決定などの準備を進め、2018年3月に役員制度改革を行いました。当社の取締役会は、各事業に伴う知識、経験、能力などのバランスに配慮しつつ、社外取締役を含め多様性を確保し、適切と思われる人員で構成することを基本的な考え方としています。そこで、取締役会の効率的な運営を目指し、取締役の総数を2名減らして計10名にする一方、経営の透明性確保およびコーポレート・ガバナンスの一層の強化を図るため、社外取締役を1名増員し、4名としました。当社の社外取締役は、他企業や大学での豊富な経済経験や知識を活かし、取締役会における独立した中立な立場での意見を踏まえた議論を活発に行っています。

また、グローバル展開のスピードアップと変化の時代に対応できるよう、役員の多様性についても強化しています。初の女性役員として、女性の社外監査役を迎えました。さらに、執行においては米国のヨコハマタイヤコーポレーションおよびインドのアライアンスタイヤグループより、それぞれ1名ずつ、計2名の執行役員を登用し、さまざまな視点からグローバルな経営課題に対応できるよう体制を強化しました。

当社は従来から、社外取締役を除く取締役に対しては業績連動型の報酬制度を導入しており、賞与は各事業年度の全社業績および各取締役の個人業績の達成度に応じて変動する仕組みとしてきました。これに対して取締役が株価変動のメリットとリスクを株主の皆さまと共有し、株価上昇および企業価値向上への貢献意欲を高めるため、社外取締役を除く取締役に対し譲渡制限付株式報酬制度を導入しました。



#### グローバル内部通報制度

事業のグローバル化に伴い法令順守と贈収賄リスクへの対応が求められる中、横浜ゴムは2017年7月、横浜ゴムグループ競争法遵守ポリシーと同贈収賄禁止ポリシーを取締役会の承認を受け、制定しました。これを内外に宣言し、ポリシーを具体化した規則・要領を定めて構成員に示すことで、競争法・贈収賄罪に抵触する行為を防止する狙いです。

併せて、競争法違反行為・贈収賄行為に焦点を当て、海外 グループ会社におけるこれらのリスクを横浜ゴムが直接把握 し素早く対応するために、海外グループ会社を対象としたグ ローバル内部通報制度の導入を順次進めています。

国内においては、コンプライアンス推進室が「コンプライアンスホットライン」「なんでも相談室」と呼ぶ内部通報制度を、また調達部門が取引先に向けた苦情相談窓口である「CSR調達窓口」を設け、既に一定の成果を挙げています。

海外においては、上述のグローバル内部通報制度を中国の 統括会社・タイヤ販売会社に導入しました。グローバルでのガ バナンス強化を目指し、アジアから順次整備を進めて、他の 地域に拡大していきます。

海外を含めた全ての拠点で行動指針の周知が行われ、内部 通報制度が機能し、それをモニタリングする会議体が活動しているのが目指す姿です。グローバル内部通報制度の導入促進でグループ全体のコンプライアンスレベルの底上げを図ります。

# 適正な意思決定が行われる 順法意識の高い 企業風土をつくります。





# <**取り組み実績>**コンプライアンス通報件数 **117**件 (2017年度、連結)

VOICE 社外監査役



社外監査役 清水 恵 西村あさひ法律事務所パートナー

社外監査役としての私の役割は、弁護士としての知見 を活かして、経営陣による業務執行において違法な点 がないか、また経営判断において十分な検討が行われ ているか、結論ありきで進められていないかなどを確認 し、外部の視点から合理性が疑われる点や懸念点があ れば、それを指摘することであると思っています。このよ うな役割を果たすためには、会社のビジネス等について よく理解することが重要となりますが、これまで工場見 学の機会をいただいたり、役員会の事前説明などの際 にも、限られた時間の中で積極的に、かつ外部の者で も理解しやすいように情報を提供しようと努めていた だいていると感じます。特に問題が生じやすいのはグ ループ会社などチェックの目が行き届きにくい場所で す。いかにグループ全体に内部統制を利かせていくか、 社外における常識や経験に基づいた客観的な目で適正 に評価・監査していきたいと考えております。自動車業 界はカーシェアの拡大や自動運転車の開発など大きな 変化を迎えています。横浜ゴムグループは長い歴史を持 ち、グローバルに事業を展開している企業ですが、技術 革新や人々の行動や社会のあり方が大きく変容していく 中で、横浜ゴムの技術力などを活かした新製品の開発 や新たな事業分野の開拓なども期待しています。



#### **TOPIC**

#### グローバル展開を支える法務支援システム

法務部への案件依頼 (契約審査、法務相談、係争対 応) に、法務支援システムというアプリケーションを開 発し、社内イントラネットで公開しています。

法務支援システムは、時間や場所に制約されずに法務部に案件を依頼することを可能にするもので、依頼元の部門が法務部に提出した資料や、法務部のコメント、審査結果などは法務支援システムに記録・保存されます。これにより、案件に関する情報が一元管理され、また、案件の経緯を後から容易にたどることができます。審査結果だけでなく、経緯も記録に残るため、上長への報告や、異動時の引き継ぎが容易になるという効果もあります。

法務支援システムへのアクセスは、パスワード認証 が要求され、その案件の閲覧の権限を持つ人以外は見 ることができない仕組みになっています。セキュリ ティ対策を講じつつも、アクセス権を設定することで、 担当者の上長である決裁権者とも詳細な情報を共有 することができるようにしているのです。

#### ユーザーの声

このシステムを使うと関係者全員で自動的に情報を共有できますし、相談結果だけでなく、経過の記録が残っていくので、報告書などを作成する「ムダ」を取ることができました。

(MD\*推進室長 渡辺英俊)

※MD: ムダ取り。MD 推進室は、業務のあら ゆるムダを取り、効率 的かつ生産的な企業活 動を実現するための部 門です。



製品を通して

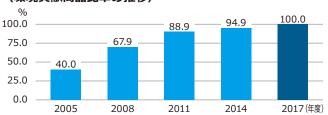
## 安心と楽しさをいつまでも届けます

### ~環境貢献商品~

#### 全ての商品を環境貢献商品に

2017年度末、世界の横浜ゴムグループの全商品における環境貢献商品比率100%を達成しました。「全ての商品を環境貢献商品にする」ことを行動指針に掲げ、2006年度から環境負荷低減を目指して取り組み、2017年度に達成しました。

#### 〈環境貢献商品比率の推移〉



#### ▶ 環境貢献商品規定(4つの考え方)とアセスメントの仕組み

当社は、環境貢献商品の認定に当たって、独自の評価基準を設け、原料調達から廃棄・リサイクルまでの4つの環境性能(地球温暖化防止、資源再生・循環、省資源、安全・快適性)全ての項目の評価を従来品よりも平均5%以上、かつ、いずれも下回らないことを義務付けています。そして、達成できない場合は新たに商品化ができない仕組みを導入しています。

新商品の開発では、必ず設計審査 (デザインレビュー) の場で、目標設定の内容や開発で目標を達成したかを審査します。

その審査の中に環境アセスメントチェックを盛り込み、環境貢献商品規定をクリアすれば製品開発を許可する仕組みとなっています。環境保全を重要な責務と考え、この環境に負荷を与えない商品開発の仕組みに今後も改善を加えつつ、継続していきます。

#### 〈4つの環境性能と環境性能評価指標〉

	環境貢献商品 			
	地	安全・快適性に貢献		
	<u> </u>			<u> </u>
環境性能	地球温暖化防止	資源再生•循環	省資源	安全•快適性
環境性能 評価指標	低燃費化 CO2排出量 省エネルギー	リサイクル性 リトレッド性能 天然素材比率	軽量化 摩耗寿命 リデュース係数 耐偏摩耗寿命	制動・静粛性能 癒やし度 脱環境負荷物質 脱汚染→環境良化
		リサイクル材料比率	開発期間	福祉·介護用品応用
LCA(ライフアセスメント) による評価				



#### BluEarth-air 1921

	AAA	AA	Α	В	С
大 数費タイヤ	а	b	ľ	=	d

#### 軽量化設計によるライトウエイト低燃費タイヤ 最新の「BluEarth-air EF21」を開発

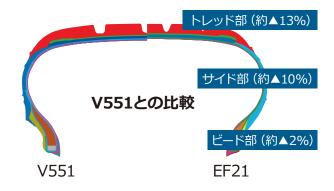
低燃費タイヤの最高峰に、さらに最新の軽量化設計技術による環境貢献をプラスした、「BluEarth-air EF21」を日本国内向けに2017年12月より数量限定で発売しました。(予定数販売終了)

「BluEarth-air EF21」は、タイヤ軽量化により車体重量を減らし燃費向上を図るとともに、使用原材料を減らすことにより環境負荷の削減に貢献しています。最新の軽量設計技術を採用し、軽量で薄くかつ高剛性な構造を実現し、質量において約25%の軽量化を実現しました。\*1\*2

また、国内タイヤラベリング制度においてころがり抵抗性能「AAA」、濡れた路面の制動性の高さを示すウェットグリップ性能「a」の最高グレードを獲得しています。優れた低燃費性能と高い安全性の発揮の両面に評価をいただいたものです。

※1: 「ADVAN dB V551」との比較。当社の一般的な質量のタイヤとして設定。 ※2:性能データについてはタイヤ公正取引協議会に届け出てあります。

#### 〈軽量化タイヤコンセプト〉



# 安全・高品質な製品や サービスにより、 変化する要求に応え続けます。





### 《取り組み実績》 環境貢献商品比率

100% (2017年度、連結)



超大型防舷材

### 超大型防舷材の開発により、より安全な荷役を実現

防舷材とは、船舶が接岸、または接舷する際に、接触の衝撃をやわらげ、船や岸壁の損傷を防ぐための緩衝材としての 役割を果たすものです。

当社の「ヨコハマ浮遊空気式防舷材」は、ゴム素材の技術を駆使して世界で初めて開発された、空気の力を利用した防舷材です。繰り返しの使用による性能の低下、ぶつかった際の衝撃、温度の変化による性能変化が少ないなど多くの利点があり、石油、鉱業、漁業、海洋掘削などのあらゆる分野で船舶の接岸・接舷用資材として広く使用されています。また、近年のLNG\*需要の高まりを受けて増加が見込まれているLNG浮遊式生産貯蔵積み出し設備でも、当社が2017年12月に開発した世界最大の直径6mの超大型防舷材を使用することで、従来の防舷材に比べタンカーとの間を広く取ることができ、より安全な荷役が可能になりました。

もし洋上で事故が発生すると、環境や海洋生物に与える被害は甚大です。品質が基準に達していない防舷材が誤って破損した場合、船体の損傷や、作業員の死傷事故を招く可能性があります。

この超大型空気式防舷材は、小さくたたんで現地へ運ぶこ

とが可能で、輸送コスト とエネルギー消費を同時 に削減できる商品とも なっています。

※液化天然ガス



2船体間荷役

### VOICE 超大型防舷材の開発者





#### 工業資材技術部 開発3グループ 鈴木 紅子

LNG移送用など超大型船が世界で増加する中、超大型防舷材へのニーズに応えてスタートしたのがこのプロジェクトです。直径6mにサイズアップするために大きさを優先すれば耐圧性能が落ちるなど、両立は非常に困難でした。試行錯誤しながら、従来とは異なる材料・製法を投入することで課題をクリアできました。部署を超えた多くの方々にご協力いただき、世界初のサイズ・品質・性能を誇る防舷材を完成することができました。

#### VOICE BluEarth-air EF21の開発者





#### タイヤ第一設計部 設計1グループ 栗山 正俊

BluEarth-air EF21は、ウェット性能・ころがり抵抗性能・耐摩耗性能という本来相反する性能を、どれも最高レベルで保ちながら、大幅な軽量化を実現した画期的な製品です。これまでのタイヤ開発の延長線上では対応できず、構造設計担当と材料設計担当が対話を重ね、専用のコンパウンドやゴムの最新混合技術を採用しました。「軽さ」というコンセプトを今後に活かし、「高品質で長持ちし、環境にも優しいタイヤを手頃な価格で」という製品を目指し続けます。



# 安心と楽しさをいつまでも届けます ~3R推進の取り組み~







新品タイヤ製造時に比べ、 わずか32%の石油資源での <sub>新品タイヤ</sub> 製造が可能。 100%

filiagaty 00% → Uhluwik タイヤ 68%の節約

資料: 更生タイヤ全国協議会

タイヤ製造・廃棄時に おけるCO2排出量が 新品タイヤ比、約60%削減可能。 新品タイヤ リトレッド タイヤ CO2 CO2

約60%の節約

資料:日本ゴム工業会編「タイヤのインベントリー分析試行」に準拠し試算

#### 3R推進 リトレッドタイヤへの取り組み

ヨコハマタイヤリトレッド (YTR) は、リトレッドタイヤの製造・販売を手掛けています。リトレッドタイヤとは、更生タイヤとも呼ばれ、走行により摩耗したタイヤのトレッドゴムを新しくして、タイヤの機能を復元して再使用するタイヤのことです。欧米諸国では、リトレッドタイヤに対する認知と理解が高く、新品タイヤを含む総販売本数に対するリトレッドタイヤの販売比率は40%以上ですが、日本では20%未満というのが現状です。主にトラック・バス・トレーラーやダンプなどで使用されています。YTRは横浜ゴムグループ関係各社との連携を強化し、リトレッドタイヤの一層の普及を目指しています。

#### リトレッドタイヤの特徴

環境負荷が低い:新品タイヤと比較し、生産に必要な石油資源量が約32% (質量比、更生タイヤ全国協議会試算)、製造中のCO2排出量も約40%と環境負荷が低い。

経済性に優れている:基本的に新品のトラック・バス用タイヤは再利用する場合の耐久性を考えて設計されているため、再利用によりトータルコスト低減につながる。

十分な品質と性能、サービスを確保:YTRは、横浜ゴムから定期的な品質監査と品質評価を受け、アフターサービスにおいても新品同等の対応を実施しています。

左記のような特徴からリトレッドタイヤは、3R (Reduce: 省資源、Reuse:再利用、Recycle:資源再生)の観点から高い環境保全効果が期待できます。

生産方式は、リボン状の未加硫\*ゴムを貼り付けたタイヤを金型で加硫するリモールド方式を採用しています。リモールド方式は、仕上がり品質が良く大量生産に適しています。また、新品と同様のトレッドデザインを使用できることもメリットです。2018年からは、トレーラーやタンクローリー向けのワイドベースタイヤ(2本のタイヤを太い1本のタイヤに置き換えたタイヤ)にも対応し、さらなる環境負荷の低減に貢献していきます。

※加硫:ゴム系の原材料に硫黄などを加えて熱し、ゴム分子を強固に結合させ、弾性や強度などゴムの性状を改善する操作。



ワイドベースサイズの装着車両 タイヤサイズ:385/65R22.5 ヨコハマMY507A

# 限りある資源を 未来へつなげます。





# (取り組み実績)製品へのゴムリサイクル比率2.3% (2017年度、連結)

## 廃棄物の完全ゼロエミッション達成率 100% (2017年度、連結)

**VOICE** 

丁寧な製品づくりで資源問題にも 取り組むリトレッドタイヤ生産現場



#### ヨコハマタイヤリトレッド (YTR)

- (右) 専務取締役 兼 埼玉事業所長(当時) 高橋 修
- (左) 製造課係長

高橋 龍

高橋 修:ワイドベースタイヤのリトレッドタイヤは、お客さまからのご要望も次第に大きくなってくると考えています。このサイズのタイヤは幅が非常に大きいため、製造に向けて、いくつかの新しい設備の導入を進めています。お客さまをお待たせすることのないように、YTR埼玉事業所で一丸となって製造に取り組んでいきます。

高橋 龍:YTRの北海道、埼玉、名古屋、尾道の4つの事業所の中で、この埼玉事業所で、最初にワイドベースタイヤを製造することになったことを、非常に光栄に思うと同時に、責任も感じています。高い品質のリトレッドタイヤを作り、資源問題に貢献していきたいです。



埼玉事業所で試作された後、横浜ゴムの厳しい評価を受ける ワイドベースサイズのリトレッドタイヤ



#### TOPIC

# 製造工程でのリデュース活動が 「資源循環技術・システム表彰」を受賞

茨城工場は、ホース製造工程の樹脂モールド材のリデュースの取り組みにおいて、「平成29年度資源循環技術・システム表彰\*」で奨励賞を受賞しました。樹脂モールド材はホース製造時に外面ゴムを被覆するもので、加硫ホースから剝がし、粉砕・融解・成型を繰り返すことにより約30回使用が可能です。しかし、リサイクルを繰り返すうちに材料の回収量が減少してしまうことが課題でした。それを2つの取り組みで大幅に改善することに成功しました。

- a) 粉砕機のスクリーンメッシュを大きくし、機械内の 滞留時間を短くすることで微粉の発生を抑制
- b) 空送による搬送をコンベヤに変更することで、発生 した微粉は集じん機へ取り込まれることなく、次 のモールド材として再利用

	粉砕機 スクリーンメッシュ	a) による効果 ペレット→再利用	b) によ 微	る効果 粉
	trents.		1	
			再利用	集塵機など
改善前	Ø12	70%	0%	30%
改善後	Ø20	85%	5%	10%

Ø(ファイ): 直径を表す

これにより30回使用後の材料回収率を70%から90%へ高めることに成功し、樹脂モールド材の年間使用量を3.6トン削減できました。

※廃棄物の発生抑制、再使用、 再資源化に資する優れた事業や取り組みの振興を目的 に実施されている。(主催: 一般社団法人産業環境管理協会)



涌して

# 安心と楽しさをいつまでも届けます ~品質・サービス向上の取り組み~



#### サービス技能コンテスト全国大会

ヨコハマタイヤジャパンをはじめ、ヨコハマタイヤ販売グ ループでは、タイヤに関して高い水準のサービスが全国どこ ででも同じレベルで提供できるようにすることを目的に、年1 回、タイヤの生産財系直営店のスタッフを対象にサービス技 能コンテストを行っています。

第3回となる2017年度は、9月に神奈川県横浜市内のホ テルにて筆記審査を開催し、筆記審査の翌日にヨコハマタ イヤネットワークサービス首都圏本牧支店にて実技審査を 開催しました。

予選は、タイヤの生産財系直営店150店舗から1名ずつ出 場、全国を8ブロックに分けて行われました。そして、厳しい予 選を勝ち抜いた13名が本選に参加しました。

コンテストは安全性、正確性、効率性を審査項目とし、筆 記、作業、接客の3種目で採点します。筆記審査は、標準作業 の知識と主要製品に関する知識の設問30問を50分間で解答 する内容となっています。また、実技審査はトラック・バス用 タイヤの前輪タイヤの交換を実施する作業が25分間、タイヤ の点検実技を含めた接客15分間という2種類の実技審査で実 施されました。参加者は日ごろ磨いてきた知識、技術、サービ スについて競い合いました。

今回は、この取り組みを横浜ゴムグループ全体へ展開を図 るための発表の場も兼ね、ヨコハマタイヤをメインで売る小 売店網の「ヨコハマクラブネットワーク」 契約オーナー店に審 査員として参加していただきました。コンテスト第2回までの 「安心・安全な作業に」というテーマに加えて、今回は実技に 制限時間を設け、いかにスピーディーに他の作業と並行して作

業ができるかという「効率性」が勝敗を分ける重要なポイン トとなりました。また、接客審査では、お客さまの持ち込みタ イヤに引きずり痕をつけておき、このタイヤの使用不可をい かにお客さまへ丁寧に伝えるかや、あえてナットやスペアタイ ヤを緩めておくなど脱輪事故につながるトラップを埋め込 み、タイヤのプロとしての安全点検がしっかり行われているか と、点検された内容をきちんとお客さまに伝えられているか が重視されました。

審査員による厳正な審査の結果、上位3名の入賞者が決定 しました。入賞者は、在籍する地域エリア内での講師やサー ビス研修などを担うことになっています。

この取り組みを通じて、横浜ゴムの生産財タイヤサービスの すべてのスタッフに高い技術を伝え、安全で正確かつ効率的な 作業ができるよう広めていきます。今後は、契約オーナー店に もコンテスト参加対象を広げていきたいと考えています。



コンテスト参加者

# 商品の全てのプロセスにおいて、 品質保証体制を確立します。





## 《取り組み実績》 タイヤサービスエンジニア新規認定数 国内6名 海外28名 タイヤクレーム判定権委任者数 国内27名 海外1名

(製品安全を担う有資格者数 2017年度、連結)

**VOICE** 

#### コンテスト優勝者



#### ヨコハマタイヤネットワークサービス中国 タイヤセンター呉店 尾茂田 章史(左)

普段は乗用車用タイヤ、トラック・バス用タイヤの脱着、交換作業を主に行っています。

コンテスト参加に当たり、基本的な大型トラックのタイヤ交換標準作業マニュアルをもとに、座学やお客さまの来店時の対応、作業に関する手順、時間配分を考えて、社内の先輩方に指導していただきながら、終始繰り返し練習しました。緊張感は大きかったですが、ひたすら基本に忠実にやろうと思いコンテストに臨みました。それが第1位という結果につながったと思います。

コンテストで優勝してから、店舗に飾ってある賞状 や盾を見たお客さまから、「タイヤ交換するなら安心 して任せることができる店に作業してもらいたい」とい う声を聞くようになり、これまでより一層安心して作業 を任せていただけるようになったと思います。

これまで他の地域での作業内容を見ることはなかったのですが、このコンテストの内容を収めたDVDを見て、店舗によっては独自の作業工具の工夫や、効率良く行うための工夫などをしていることを知りました。

自分の店舗でも良い点は取り入れて創意工夫し、仲間と切磋琢磨したいと思っています。



#### **TOPIC**

#### 持続可能な開発目標 (SDGs) の学習 (取引先勉強会)

当社が製品を作るための原材料や工場で使用する 資材は多様で、これらはさまざまな取引先から提供い ただいています。国内工場は全国7カ所に展開してお り、それぞれの工場はその土地で事業展開している企 業と連携しながら共に発展を遂げてきました。

当社は、そのような取引先から持続的に原材料や資材を調達し、安定した生産が行えるように取引先と共に勉強会を開催しています。2016年度にはコンプライアンスと自然共生(生物多様性)について、2017年度にはSDGs、資源循環と安全衛生について学習しました。CSRに関する理解を深めることで、経営を行う上でのリスクを小さくし、お互いにWin-Winな関係を構築できると確信しています。また、勉強会を通して、当社のお客さまからのCSRに関する要求についてもお伝えし、共通認識を深めています。

2017年度は、330社364名の参加があり、参加した取引先からは、普段あまり考えたり見聞きしたりすることのない話題や情報を得ることで知見を深めることができ、また自社の職場で活かせているという声をいただいています。



勉強会の様子

地球環境の ために

# 豊かな自然を次世代へ伝えます ~千年の杜への取り組み~



#### 千年の杜、次のステップへ

#### ▶ 千年の杜プロジェクトとは

「YOKOHAMA千年の杜」は横浜ゴムの創立100周年に当 たる2017年までに国内外の生産・販売関連拠点に潜在自然 植生を活かして50万本の苗木を植えるプロジェクトです。こ のプロジェクトは「参加者の環境意識の啓発」、「防災、環境 保全林の形成」、「地球温暖化抑制への貢献」、「生物多様性 の維持1、「地域社会とのコミュニケーション1を目的に、た だ木を植えるだけではなく、地球環境・地域社会の "命を守る 緑環境再生活動"として取り組んできました。

「YOKOHAMA千年の杜」の活動は当社グループ全従業員 の参加による活動を特徴としています。苗木を作るためのど んぐり拾い、どんぐりのポットへの植え付け、ポット苗への肥 料・水やり、植樹のためのマウンドづくり、実際の植樹とその 後のメンテナンスなどの作業を従業員自らが汗をかき、力を 合わせて取り組んできました。

#### ▶達成状況

2007年11月11日に実施した平塚製造所での植樹を皮切り に、国内14拠点、海外の8カ国20拠点において植樹を実施 し、2017年9月に目標の50万本を達成しました。さらに植樹 を続け、12月末の植樹本数は525.662本となりました。

当社の工場など敷地内での植樹だけでなく、市町村や学 校、他の企業などに無償で苗木の提供や植樹指導を行ってき ました。2017年末までに提供した苗木は、国内外で合計 326,673本になりました。

#### ▶ 今後の目標

「YOKOHAMA千年の杜」の取り組みは地域の樹種の遺伝 子を保存し、地域生態系の維持・補完のための活動でもあり ます。地域に提供した苗木が育つことにより、その木を利用す る昆虫や野鳥に生活できる空間を提供することになります。 その空間がつながり、生き物が行き来しやすくなることで地 域全体の生態系が豊かになっていくと考えています。

また、岩手県大槌町 「平成の杜」での経験を元に、他の地域 でもいのちを守る森の防潮堤づくりと、防災意識の啓発にも 貢献していきたいと考えています。

当社は、「YOKOHAMA千年の杜」活動を通してこれまで 培ってきた知見を活かし、これからも地域の生物多様性保全 に寄与するため、苗の提供と植樹ノウハウの提供を中心に、 この取り組みを継続していきます。2030年までにこれまで 行ってきた植樹および苗木の提供も含め130万本の「木を植 える」活動として継続していきます。



社会福祉法人 進和学園への苗木の寄贈式

# 自然とふれあい、 自然から学ぶ機会を 提供します。





《取り組み実績》 「YOKOHAMA千年の杜」活動による 植樹本数 + 苗木の提供本数 852,335本

(2017年12月31日現在、連結)



#### 教育の杜構想

#### ▶ 教育の杜が目指すところ

YOKOHAMA千年の杜活動で行ってきた「参加者の環境意識の啓発」、「地域社会とのコミュニケーション」をさらに発展させ、「教育の杜」に取り組むことにしました。教育の杜では地域の学校の子どもたちに当社が培ってきた技術やノウハウを出張授業などの教育コンテンツとして提供し、新しい知の世界への冒険の窓口や生きていくための知恵を得るためのきっかけを提供していきたいと考えています。

#### 目標、実施予定の事項

幼稚園・保育園の園児、小・中学生や、高校生および先生方 を対象としたコンテンツの提供を行っています。

現在 提供している プログラム

- ●交通マナー教室
- ゴムのはたらき
- ●どんぐり工作&苗木づくり
- 木を植えよう

#### ▶ 今後の目標

教育の杜では、当社の製品やサービス、それを提供するために当社が取り組んでいることを教材として分かりやすいプログラムとして提供します。これにより、科学に対する視点を得ることや気づきや興味の掘り起こしを目指します。そして、受講生のこれからの生き方を豊かにし、また従業員と地域社会とのコミュニケーションから新しい技術や知見の芽が生まれることにもつながってほしいと考えています。



#### 地域の次世代を育む「教育の社」活動 出張授業「どんぐり工作&苗木づくり」を開催

新城工場は、2018年4月、新城市立八名小学校にて1・2年生を対象に出張授業「どんぐり工作&苗木づくり」を開催しました。従業員自らが授業の講師を務め、どんぐり工作ではこどもの日にちなんだリースの作り方を、苗木づくりではポットへの挿し木の仕方を教えました。

校長先生からは「低学年の子どもは好奇心旺盛で 積極的です。外部の人から教わるこのような体験は刺 激になり大変良いことなので、今後もぜひ出張授業の 実施をお願いしたい」と評価をいただきました。

八名小学校での「どんぐり工作&苗木作り」の出張 授業は、今回で5回目となります。今後も地域の皆さ まから親しみやすく、信頼を得られる存在であり続け るために、「豊かな杜を育む」「人を育む」「地域との 絆を育む」を軸にした活動に積極的に取り組んでいき ます。



どんぐり工作授業の様子



子どもたちが 作った苗木

地球環境のために

# 豊かな自然を次世代へ伝えます 〜持続可能なサプライチェーン〜

#### 横浜ゴム本社での取り組み

#### SNR-iの5つの原則

- · 生産性向上支援
- ・天然ゴムの品質向上
- 森林の持続性支援
- ・水の管理
- 人権、労働基本権への配慮

#### 持続可能な天然ゴムイニシアティブに賛同

横浜ゴムは、天然ゴム・合成ゴムの生産国と消費国の政府で構成される政府間組織の国際ゴム研究会 (International Rubber Study Group、以下IRSG) が提唱する天然ゴムを持続可能な資源とするための活動 (Sustainable Natural Rubber Initiative、以下SNR-i) の趣旨に賛同し、活動に参画しています。

また、持続可能な発展のための世界経済人会議 (World Business Council for Sustainable Development, 以下 WBCSD) のタイヤ産業プロジェクト (Tire Industry Project, 以下TIP) においても持続可能な天然ゴムについての議論と検討が開始されています。当社はWBCSD TIPの一員として責任を果たしていきたいと考えています。

世界人口の増加や自動車普及により今後もタイヤの需要は拡大する見込みです。それに従って天然ゴムの需要も増加すると予測されることから、タイヤ・ゴム製品メーカーとしての社会的責任を認識し、同活動を積極的に推進していきます。

当社グループではCSRの重要課題として「バリューチェーンを通じたCSR活動の推進」を掲げ、2014年からタイ、インドネシアの天然ゴム農園で生物多様性や人権擁護状況などについて調査を行ってきました。また、タイに所有する天然ゴム加工会社では、天然ゴム林に竹や果樹など10種類以上の樹木を混植して育てる「アグロフォレストリー農法」を取り入れた農家の育成などを行っています。こうした当社のバリューチェーンにおけるCSR活動の例を紹介します。



#### 天然ゴムの取引先交流会を実施

2018年4月に、2回目となる天然ゴムの取引先を対象とした 交流会 (サプライヤーズデー) を開催しました。5カ国から25社 42名の方にご出席いただき、取引先に対して当社のCSR方針に 沿って天然ゴムを持続的な資源とするための取り組みへの協 力を依頼し、取引先との共通理解を深めました。

天然ゴムはタイ、インドネシア、ベトナムなど東南アジアに 生産地が集中しています。天然ゴム生産は大規模な農園 (プランテーション) での生産が中心ではなく、数多くの小規模な 農家による生産によって賄われています。

そのため当社は生物多様性保全や気候変動に重大な影響を及ぼさないよう、天然ゴムサプライヤーと共にトレーサビリティ(追跡可能性)の確保、サプライチェーンの透明性の確保に取り組んでいきます。

また、当社がタイのスラタ二地区で進めているアグロフォレストリーの取り組みを紹介しました。アグロフォレストリーの普及のために当社が指導を仰いでいるソンクラ大学のサラ教授からビデオレターにより取り組みの説明や最近の研究動向について説明していただきました。

天然ゴムが自然環境との調和を保ちながら持続的に生産されるために、農民の経済的な自立を助けながらWin-Winな関係が構築される取り組みを展開していきたいと考えています。

# 天然ゴムを持続可能な 資源とするため、 事業を通して取り組みます。

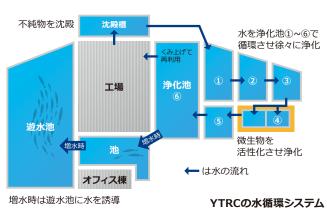




# 〈取り組み実績〉 サプライヤーズデーに参加した サプライヤー数

42名.25社(2018年開催)

#### 天然ゴム加工工場での取り組み(YTRC)





#### YTRCでの水循環の取り組み

タイの天然ゴム加工グループ会社であるY.T.ラバー (YTRC) では、操業当初から、工場内で使用した水を敷地外に出さな いという協定を地域と結び、水を繰り返し利用し続ける水循 環システムを稼働させています。YTRCでは2種類の原料ゴム を使用しSTR (Standard Thai Rubber) を製造していますが、 水はこれら原料を洗浄する工程で主に使用されています。

YTRCは敷地内に沈殿槽と浄化のための6つの池を持ち、こ の中で水を循環させ再利用しています。製造工程で使用した 水は最初に沈殿槽に送られ、不溶性の不純物を沈殿させます。 その後6つの池を循環することで微生物による水質浄化を図っ ています。そのうちの一つの池では一定時間攪拌して空気を混 入することで微生物による浄化を促進しています。このように 浄化された水をくみ上げ、再び製造工程で使用しています。

この浄化池の水を定期的に採取し水質を分析することで、 適切に管理しています。また大雨で浄化池の水位が上昇した ときの受け皿としてオフィス棟の横の池と遊水池を設置して おり、外部に直接洗浄水が流れ出ることを防止する仕組みと なっています。

この沈殿と微生物による循環浄化システムの機能を最大限 に保つために、工場内で使用する洗浄水について、各工程の設 備が停止したときにはバルブが閉じ、池からのくみ上げ量を自 動的に減らす仕組みを採用し、全体の水量を適正な範囲にコン トロールしています。この取り組みで循環水量を約30%削減で き、それにより沈殿時間や、微生物による浄化時間を延ばすこ とで水質の改善とエネルギーの削減を図っています。

飲料用以外の生活用水は、川からくみ上げた水を薬品処理・ ろ過・滅菌処理をして使用しています。処理した水の貯水槽の 屋根を雨水受けに改造し、雨水を利用することで河川からのく み上げ量の削減を図っています。生活排水は浄化槽を通り工場 洗浄水として再利用しています。

遊水池には工場の近くを流れるタッピ川と同じ種類の魚が 生息しています。遊水池はタッピ川の生き物の代替生息地と も言うことができ、タッピ川の生物多様性保全にも寄与でき ると考えています。工場スタッフが定期的に魚を捕獲し、種類 と数を調査することで遊水池の生物多様性が保たれているこ とを確認しています。

また、工場近隣の住民の方々に遊水池を開放し、魚を取って もらう機会を設けています。2016年には約12トンの魚を住民 の方に提供することができました。この取り組みを通じて遊水 池はタッピ川と同種の魚が繁殖できる水質、環境であり、生物 多様性を確保できていることを住民の方にも確認していただ くことができました。この地域で生産活動を継続するために は地域に住む方の理解が欠かせません。これらの活動以外に も、YTRCの環境安全部門のスタッフが定期的に地域住民の 方々を訪れてミーティングを行っています。地域の方々の意見 を聞いて、YTRCのCSRの取り組みに反映させるとともに、自 社の取り組みを地域の方々に伝え、信頼関係を築いています。

地球環境のために

# 豊かな自然を次世代へ伝えます 〜持続可能なサプライチェーン〜

#### 天然ゴム農場での取り組み



#### 天然ゴム農園への支援 (YTRC)

タイヤ・ゴム製品の原料である天然ゴムの持続可能な調達のため、タイのY.T.ラバー (YTRC) ではアグロフォレストリー農法の普及支援をしています。アグロフォレストリーとは、農園内にさまざまな農作物や樹木を混植する農法のことで、天然ゴム、果実、木材など複数の種類の作物から収穫があることで収入が安定し、また農園内の生物多様性が向上するなど多くの利点があります。

ゴムノキの苗を植えてから天然ゴムが取れるようになるまで5~8年程度の年月が必要です。アグロフォレストリーでは、その期間に他の作物から収入を得ることが可能となります。また天然ゴムは相場により価格が大きく変動します。天然ゴムが収穫できるようになった後も農園に植えた多種類の作物により天然ゴム農家の収入の安定化に寄与します。

ゴムノキには、一定の期間に一斉に葉を落とす落葉期(ウィンタリング)があります。それ以外の時期はほとんど葉を落とさないため、落葉期に落ちた葉が昆虫や微生物などに分解されると土の表面を覆うものがなくなり、土の乾燥が進むことがあります。さまざまな植物を植えることにより地表面が常に落葉で覆われやすくなり、土が乾燥から守られるようになります。また葉っぱが分解されることによりゴムノキの肥料となり、コスト削減にも寄与します。

ゴムノキがかかる病気の一つに「根白腐病」があります。東南 アジア地域では最もリスクが高いとされています。一度根白腐 病が広がると、瞬く間に近くの木に広がってしまいます。病気が 広がった土地では少なくとも5年はゴムノキを植えることができません。アグロフォレストリー農園には多様な植物が生えているため土中の菌類の種類も複雑になっています。そのためか根白腐病が発生しにくいといわれています。

YTRCでは専門家であるソンクラ大学のサラ教授に協力を仰ぎ、スラタ二地区近辺の天然ゴム農家に対してアグロフォレストリーの講習会を行ったり、サラ教授と農家との窓口を担ったり、講習会場の提供などを行ったりしています。サラ教授による研究では、アグロフォレストリー農園は通常の天然ゴム農園より収量・収入ともに増加したという結果が出ています。しかし、まだ事例が少ないためYTRCではこの農法を多くの農家に採用してもらうよう努めています。YTRCがこのプロジェクトを開始した2016年には参加農園数は10で面積では約12ヘクタールでしたが、2017年には27農園に増え、面積では約40ヘクタールになりました。2020年までにアグロフォレストリー農園を約180ヘクタールに拡大する予定です。

YTRCから農家に対する直接支援として、2017年には約4,000本の苗と約10トンの堆肥の提供を行っています。この苗はYTRCの従業員が種集めをし、工場敷地内の苗場で育てています。堆肥はYTRCにおいて天然ゴムの製造プロセスで発生した沈殿物と工場内で刈った草、食堂から出た食物の残りくずなどを利用したものです。

# 天然ゴムを 持続可能な資源とするため、 農家の方を支援します。









### 《取り組み実績》 アグロフォレストリーの取り組み 27農園 (約40ヘクタール)

(2017年末時点)

#### **VOICE**

#### アグロフォレストリー農園主



#### プラジュアプ・ヌーペットさん

天然ゴム農園の一角でアグロフォレストリー農法を 始めて8年になります。初めてアグロフォレストリーの 話を聞いたときは、「とても素晴らしい農法だ」と思い ました。

この農法を始めてから数年で化学肥料を使うことはなくなりました。 農園にはフルーツや香料の原料となる植物、家具などになる木などを植えています。 収入の安定化だけでなく公共の役に立っていると感じられ、この取り組みを行っていることを誇りに思っています。

スラタ二地区は近年、開発が進んで野生動物の数も減ってきましたが、アグロフォレストリーに取り組み始めてから、私の農園にはチョウなどの昆虫や野生の鶏など、生物の数も種類も明らかに増えたと思います。また、スラタ二地区では乾季はほとんど雨が降りませんが、落ち葉が保湿の役割を果たし、土壌の乾燥もしなくなりました。

YTRCからは苗を支給してもらっており、大変ありがたく思っています。農法の知識や天然ゴム以外のマーケット情報など分からないことも多いので、そういった情報がもっと手に入るようになると嬉しいですね。今後はコーヒーや野菜など色々な作物を植え、自分がアグロフォレストリーのエキスパートになって、自分の農園をラーニングセンターにしていきたいと思っています。



#### 持続的な天然ゴム調達のために—— インドネシアのサプライチェーン調査

当社は2018年3月に天然ゴムの大手サプライヤーで あるインドネシアのPT. KIRANA MAGATARAと共にイ ンドネシア・スマトラ島の天然ゴム小規模農家の方々と のコミュニケーションを行いました。天然ゴムはゴムノ キから得られる樹液を集め、その中からゴム分のみを 取り出したもので、ブロック状に加工され、タイヤなど のゴム製品の生産に使用されます。天然ゴムの約80% の生産は、作付面積が2ヘクタール未満の小規模農家 の方々によって担われています。天然ゴムは農産物であ るため季節や天候により収穫量が左右されます。 さら に国際的な市場取引が行われることにより価格が大き く変動することもあります。また天然ゴムのサプライ チェーンは非常に複雑で、生産者から天然ゴム加工・輸 出業者にまで2~6あるいはそれ以上のステップがある といわれています。PT. KIRANA MAGATARAでは農家 の方々にゴムの収量増と高品質化に役立つノウハウを 伝え、農家の経済的な自立を促しています。その結果 として生物多様性の保全や気候変動への悪影響を抑 制することにもつながっています。ステークホルダー との絆を強化することで、持続的な価値を創造する取 り組みとなっています。当社は天然ゴムユーザーとして PT. KIRANA MAGATARAの取り組みに学び、また直 接小規模農家の方々の意見を聞くことで天然ゴムを持 続可能な資源にする活動につなげていきます。



天然ゴム 採取の様子

地球環境の ために

# 豊かな自然を次世代へ伝えます ~省エネ・自然エネルギーへの取り組み~



#### 全社タイヤ拠点における省エネルギー

近年、国連の持続可能な開発目標 (SDGs) の採択や、 COP21での「パリ協定」の採択など、持続可能な取り組みが社 会から要請されています。また投資家らステークホルダーの皆 さまからも、経営戦略とCSR戦略との連携が求められていま す。このような中、当社グループも省エネルギー・再生エネル ギーへの取り組みを進めています。省エネルギーを考える上で は、温室効果ガス (GHG) 削減と採算性のバランスを取りなが ら、中長期目標に対し、常に実現可能な手段を準備することが 重要です。タイヤの製造プロセスは、エネルギーを大量に消費 します。施設管理部では、生産拠点のエネルギー効率機器の 採用・更新やエネルギーロスの削減などさまざまな場面で省 エネ活動を支援しています。タイヤの製造設備や仕組みも変化 し続けており、生産時のエネルギー消費の実態をより正確に把 握するために、詳細に広範囲で計測できる管理システムを開発 し、反映したいと考えています。また、工場内の電力・配電設備 や、ボイラー、給排水設備などの効率的な運用の企画立案や、 空調の冷媒におけるGHGの削減施策なども施設管理部の重要 な役割です。近年は、大型コージェネシステムの導入、ボイラー の燃料転換を中心に国内工場から順次海外工場にも展開して

います。海外での省工ネは苦 労も多いですが、GHGの削減 効果が大きく、積極的に展開 しています。再生可能エネル ギーの取り組み余地も大き く、今後の技術動向を見極め ながら進めていきます。



施設管理部 グループリーダー 石井 健治



#### コージェネシステム導入の推進

タイの生産拠点のヨコハマタイヤ・マニュファクチャリン グ・タイ (YTMT) では、2017年5月に工場内にガスタービン と廃熱を利用したボイラーで効率的に発電するコージェネシ ステムを、当社グループの海外拠点で初めて導入しました。

コージェネによる安価な電気と蒸気の供給により、工場内 の省エネとコストダウンが同時に可能となります。これによ り年間で9,300トン、2016年度比で14%のCO2排出量削減を 見込んでいます。また従来より3~6%の光熱費削減が期待で きます。

電力供給が不安定なタイにおいて、コージェネは停電の際 には非常用電源としての役割も担っています。

国内では2017年現在、3工場で稼働しています。24時間連 続運転により工場で使用する電力の73%、蒸気使用量のほぼ 全量をコージェネで供給し、CO2削減と電力会社からの電力、 ピーク電力削減に貢献しています。



三重工場のコージェネシステム

# 全社的・継続的に 環境負荷低減活動に 取り組みます。



### 〈取り組み実績〉 温室効果ガス排出量

363千t-co2 Scope1 354千t-co2 Scope2 Scope3 **23,237千**t-CO<sub>2</sub>

(2017年度、連結)



#### インドにおける太陽光発電の導入

大気汚染が深刻化しているインドでは、経済成長を維持し ながら環境改善するために、石炭や石油などの化石燃料から CO2の削減を目的とした自然エネルギーへの転換が求められ ています。その一環として太陽光発電の導入が国の政策とし て急速に進められてきています。

ヨコハマインディア (YIN) が所在するハリヤナ州では、 2022年までに州全体で4.030MWを太陽光で発電するという太 陽光発電計画が2014年にスタートしており、YINには2017年現 在で契約電力の8%の設置が義務付けられました。

YINでは、625枚の太陽光パネルを設置することで契約電 力の9%の発電が可能となり、その結果2017年8月~2018年 3月までにCO2排出量を約112トン (算出方法: 1kWh=CO2削 減量0.8kg) 削減することができました。 晴れた日中は125k W程度発電していますが、平均では1日約80kWの発電量に なります。太陽光発電による電気は、工場内の照明やコンセン トなどに使用しており、電気代の削減にも寄与しています。

今後、工場の拡張計画もあり、義務付けられた容量を達成 するために、2022年3月までの計画として太陽光発電システ ムの増設を計画しています。

工場の受付に発電量を示すモニターを設置し、環境意識の

啓発にも取り組んでい ます。事業を通じて、イ ンドの環境改善にも貢 献していきます。



工場の受付に設置された 発電量を示すモニタ



#### ガスボイラーへの転換

中国では、大気汚染が深刻な問題となっており 2017年来、工場からの粉じん排出量を規制する対策 が打ち出されています。山東省でも例外ではなく、山 東横浜橡胶工業制品有限公司 (YRSC) では、2016年 度、使用していた石炭ボイラーへ粉じん除去装置を設 置していましたが、2017年3月に所在するウェイファン 市から10トン以下の石炭ボイラーの撤廃に関する一斉 通知が発行されたことによりガスボイラーへ転換する とともに熱媒体を蒸気から油へ変更しました。

燃料効率の良い油を熱媒体とする熱媒油方式は、一 度加温した油を循環させることにより油の温度下降口 スを抑えることができ、蒸気媒体よりもガス使用量の低 減が可能となります。下記の目標を掲げ、2017年10月か ら稼働を開始しています。

今後も法規制や環境対 策指針について広く情報 収集し、環境問題へ積極 的に取り組んでいきます。



新設ガスボイラ

#### 【YRSCの目標】

2018年度にCO<sub>2</sub>排出原単位を基準年(2017年度) 比で45%削減する

#### 〈蒸気と熱媒油比較の熱量ロスの考え方〉





# 共に高めあい、笑顔を広げます ~多様な働き方への取り組み~

#### 女性活躍推進 基本方針

多様な働き方を認め合い、 キャリアを継続し、 長く働きやすい会社を目指す

#### 働きやすさを実現する新制度導入へ

当社は女性をはじめ誰もが働きやすい職場を目指し、2016年「女性活躍推進タスク」を設立し、現在は8名のメンバーを中心に各部門と連携して活動を進めています。

2017年は従業員意識調査や全女性従業員への個別ヒアリングの実施、また、結婚や出産で休職・退職した女性従業員への個別面談も実施し、復職に向けたニーズの把握にも努めました。女性従業員の個別ヒアリングからは、キャリアの考え方、育児・介護への両立の不安や、育児中の時短従業員の心境など職場での不安や思いをうかがい知ることができ、多様な働き方を実現できる制度の必要性が明確になりました。

これらを踏まえ、女性活躍推進の基本方針を「多様な働き方を認め合い、キャリアを継続し長く働きやすい会社を目指す」に設定。ワーキングマザー交流会の開催、女性特有の疾患について理解を深める勉強会などをはじめとし、女性が長く働きやすい職場づくりに役立つ意見交換やコミュニケーション向上などの施策に取り組んできました。トライアル期間を経て2018年4月から「在宅勤務制度」・「短時間勤務延長」・「キャリアリターン制度」を正式に導入しています。

今後も、時間単位で取得できる有給休暇、フレックスタイム 制度の拡充など働きやすい環境整備に力を入れ、多様な働き

やすい環境の中で、従 業員一人一人が力を発揮 し、成果が出せる職場づ くりを進めていきます。



「女性活躍推進タスク」を設け、より働きやすい環境を整備

#### **VOICE**

#### 女性活躍推進タスク タスクリーダー



経営企画本部 女性活躍推進タスク タスクリーダー 若林 真知江

「女性活躍推進タスク」では、女性従業員や女性の部下を持つ管理職へのヒアリングを行い、さまざまな考え方や思いに触れ、本音で意見を伺うことができました。全女性従業員から個別に直接話を聞くという手段は、時間とパワーが必要なことでしたが、多様なキャリアの考え方や働き方へのニーズがあることへの理解促進につながり、今後の施策立案につながる有意義なことだったのではないかと思っています。

その結果、2018年度より、各種制度や仕組みを段階的に導入することになりました。特にニーズの高かった「育児」「介護」「女性のキャリア継続」を重点施策として、育児休暇取得から復職へのガイドライン策定、全従業員への介護アンケートやヒアリングの実施、女性従業員や管理職を対象とした各種セミナーなどの開催を積極的に進めていきます。

#### 働きやすさを支える諸制度

- ●在宅勤務
- ●育児のための短時間勤務の延長
- ●キャリアリターン (復職)
- ●時間単位の有給休暇の取得

# 多様な人材が安心して 活躍できる 職場や社会をつくります。





#### 《取り組み実績》 総合職女性採用比率

32.5% (2017年4月入社、単体)



#### **TOPIC**

#### ITを活用した効率的な働き方の実現

当社では、働きやすい職場環境づくりの一環としてITの 有効活用を進めています。全従業員が効率的な働き方を実 現できるツールの導入・活用を積極的に進めています。 2017年度からはより効率的にコミュニケーションできるビ ジネスチャットツールを展開しました。従来からのメール を中心としたコミュニケーションに比べ、よりスピーディー に連絡を取り合うことが可能となり、業務の効率化に役 立っています。その他にも個人のスマートフォンで会社の メールやスケジュールを確認することができるBYOD (Bring Your Own Device) も開始し、隙間時間の有効活 用など生産性の向上に貢献しています。これらのツールは、 多くの便利な機能を持つ一方で、詳しい使い方を知らない 従業員も多いため、業務に役立つ具体的な活用方法を共 有できるセミナーや研修会を定期的に実施しています。

また、企業内SNSの活用も開始し、在宅勤務が普及し職場に全員がそろいにくいような場合でも、コミュニケーションが取れる手段を整備することで、より円滑に業務を進められるよう取り組んでいます。

こういったさまざまな取り組みを、業務部門や人事部、 労働組合と連携を取りながら進めることで、従業員の働き 方の向上を側面から支えています。



IT研修の様子

### VOICE 「在宅勤務制度」活用者



#### IT企画部 BIタスク 宮津 良太

2017年10月よりトライアルで月に1~2回の割合 で在宅勤務を取り入れています。主な目的は在宅 勤務を実際に実施することでIT面の課題を見つけ 出すことです。私が在宅勤務の実施で感じたこと は、通勤時間を無くして仕事に有効活用できるこ と、作業を中断されずに集中して業務に取り組め るというメリットですね。ウェブ会議やチャットを 活用することで上司や同僚との連絡にも支障はあ りません。連絡の際はツールを使い分けることで、 コミュニケーションに支障が出ないよう工夫して います。課題としては、オフィスと同様に仕事に集 中できる環境の確保があります。自宅で長い時間 でも机に向かって仕事ができるよう机や椅子を調 えたり、一緒に住んでいる家族に一定の理解をして もらうことも大切だということも分かりました。ま た、この取り組みを広げていくためには、職場の理 解を進めることも重要です。私はITの活用で業務 を効率化する部門に在籍しているので、トライアル の結果を積極的にフィードバックし、利便性向上へ のIT環境の整備を提案していきたいと思います。

人との つながり

# 共に高めあい、笑顔を広げます 〜誰もが働きやすい職場づくり〜



#### 障がい者の活躍支援(YPS)

ヨコハマピアサポート (YPS) は、横浜ゴムの特例子会社として、障がい者の雇用の場を創出する目的で2012年3月に創業しました。

障がい者は、業務の拡大をすることで雇用の場を創出しながら、設立時から毎年、定期的に採用しています。現在は、全体で51名、うち知的障がい者が28名在籍しています。業務は、平塚製造所の中で、150カ所を超えるトイレや会議室、休憩室などの清掃をはじめ、緑化作業、郵便や社内メールの仕分け・配送、作業着の管理などを行っています。仕事は個人の特性に合わせて配置をした上で、業務の範囲が増えたり、新人指導ができるようになるなど、レベルアップすることで少しずつ評価が上がる制度に見直し、人材育成に力を入れています。当社のOBを中心とした指導員が日々、丁寧に指導を行うことで、障がいのある従業員一人一人が安心して業務に取り組める職場環境づくりを心掛けています。日々の相談だけではなく、半年に1回、個別面談を実施することで、キャリア、要望、悩みなどを把握し、定着率の向上にも努めています。

今後も、安全・基本をしっかり守りながら、プロ集団になる

べく業務遂行をし、長く 活躍できる職場づくり を目指していきます。



6周年を迎え、仕事のプロ集団としてさらなる成長を目指す YPSのメンバーたち



#### 海外での障がい者雇用 (CHZY)

中国浙江省杭州市杭州経済技術開発区にある杭州優科豪 馬輪胎有限公司 (CHZY) では、国の提唱に応じて2006年よ り積極的に障がい者を採用しています。現時点で22名の身体 障がい者が在籍しています。

仕事内容については人事・総務部と連携しながら、資料整理や工場内の各工程看板の作成など、各個人が可能なレベルに合わせた作業を行っています。職場では、技能取得研修や安全・環境知識についての研修も実施しています。また、会社の定期的なアウトドア活動や懇親会などを実施し、従業員が親睦を深める機会を設けています。そのような活動が評価され、2017年度杭州市障がい者雇用モデル企業として表彰されました。今後も人的資源の活用最大化を目指しており、一人一人の適性を見極めて、職場・仕事範囲の拡大を図ろうと考えています。適材適所の配置を行うことにより、仕事に対する自信と自己肯定感を高め、全ての従業員が活躍できる会社を目指します。



楽しい職場づくりのため、みんなで協力して作成した5S\*掲示板 ※5S (整理、整頓、清掃、清潔、躾)

# 誰もが安心して活躍できる 職場や社会をつくります。





### 〈取り組み実績〉 障がい者雇用率 2.18%

(2017年4月~2018年3月横浜ゴム、ヨコハマタイヤジャパン、 横浜ゴムMBジャパン、ヨコハマピアサポート4社計)



#### **TOPIC**

#### 海外女性管理職の登用

当社では、意欲や能力がある従業員に活躍の場を提供し、一人一人の力を発揮できる環境づくりを進めています。

海外では、すでに女性の活躍が進んでいる地域もあり、管理職として意欲的に働いている女性も多数います。

**VOICE** 

#### タイで活躍する女性管理職



ヨコハマタイヤ・マニュファクチャリング・タイ (YTMT) 人事総務部門 シニアマネジャー ジリニー・ホァップナリン

YTMTの女性比率は約2割ですが、人事総務部門 の約7割、32名が女性です。そのうちオフィスでは18 名中15名が女性です。採用に当たり性別は意識して いませんが、資料作成など細かい仕事は女性向きと 感じることも多く、結果的に女性比率が高くなりま した。タイでは一般的に残業は少なく、家族で子育 てを行うため、子どもの有無が仕事に与える影響は あまりありません。私にも子どもができたなら家族 のためにもっと働かなくてはと考えるでしょう。人事 総務部は従業員に対して厳しいことを言わなくては いけないこともありますが、従業員の誕生会など皆 に喜んでもらえる仕事もあり部下には自信を持って 仕事をしてほしいと思います。管理職になることに ためらいもありましたが、今では責任感を持って仕 事に取り組み、やりがいも感じています。部門の責任 者として、今後も頑張っていきたいと思います。

#### VOICE 中国·

#### 中国で活躍する女性管理職



杭州優科豪馬橡胶制品有限公司 (YIP-HZ) (左) 副工場長 童 丹 (右) 管理部部長 任 諠群

任 **諠群**:管理部の部長として総務・人事・渉外(政府・官庁とのやりとり)・法務などを担当しています。部長就任時には大変嬉しく、信頼を裏切らないよう、さらに実績や評価を上げるために努力もしました。毎日、安全唱和を行い普段から「安全と心と身体の健康」を心掛けています。「人のケア(優しさと厳しさを備える)」「マネジメント能力」を身に付け、今後も貢献していきたいと考えています。

**童 丹:**YIP-HZはホースや自動車のシーリング材を 製造する工場です。会社からの評価を嬉しく思うと 同時に大きなプレッシャーも感じました。最初は大 変でしたが、改善事項を共有することにより全体の 仲間意識を持つことができるようになりました。 「安全・品質で世界一の工場になる」を目標に、特に 「品質」への意識を高める事で「安心」へもつなが る事を従業員に周知しています。



# 共に生き、ゆるぎない信頼を築きます ~地域の安全に貢献~



#### 安全な地域社会づくりへの貢献

平塚製造所は、自然災害発生時の相互扶助を目的として、隣 接する神奈川県立平塚盲学校と防災協定を締結し、合同防災 訓練を実施しています。

2006年より合同訓練を開始し、2017年末までに計16回実 施しました。平塚盲学校と平塚製造所の敷地をつなぐ非常出 入り口の設置、教職員への消火器やAEDの取り扱い、心肺蘇 生法講習会の開催など、さまざまなカタチで協力をしていま す。参加した従業員は、障がいを持つ方を避難誘導するとき に配慮すべきことを学びながら、けがのないよう細心の注意 を払って訓練に臨みました。

毎回、課題を洗い出すなど振り返りを行うとともに、地域コ ミュニティからの要望に応えられるよう、今後も防災に向け た取り組みを継続していきたいと考えています。

#### 盲学校が計画する地震・津波避難訓練(参加人数約100名)

#### 地震避難訓練の支援



けが人の担架搬送

#### 一次避難訓練内容

地震を想定し重椅子の生徒やけが人 を担架で校舎3階から1階へ避難

#### ● 一次避難訓練内容

校舎の倒壊を想定し、生徒たちを盲 学校から総合公園へ避難誘導

#### 地震・津波避難訓練の支援



階段での誘導

#### 津波避難訓練内容

津波を想定し重いすの生徒を1階か ら校舎3階まで避難 2016年度は初めての試みとして平 塚製造所内の事務棟への津波避難 誘導



#### 交通安全の意識づけ「Safety start with me」 (YTVI)

ヨコハマタイヤベトナムインコーポレーテッド (YTVI) で は、2016年から交通安全啓発活動に取り組んでいます。2017 年2~3月にトラックやバスのドライバー向けに「安全に帰宅し よう」と呼びかけ、安全ステッカーの配布活動を行いました。

また、協賛支援しているサッカー教室には延べ650名の子 どもたちが参加しています。そこでは、練習の後に、さまざま な形の表彰ペナントを持って記念撮影を行います。そして、そ の場で安全標語が入った写真ケースを配布して、印刷した写真 を入れてもらいます。安全標語を唱和することで、記念写真の 思い出とともに交通安全の大切さを感じてもらっています。

また、若年層の交通事故比率が高いことから、交通ルール を正しく理解して、安全な運転を身に付ける機会をできるだ け多くつくることも必要です。そこで、多くの家族連れや若者 が集まるショッピングモールの協力を得ることができ、子ども たちや特に10代の方を対象に、ミニゲームを行いました。よ り安全な交通ルールを楽しみながら学ぶ機会となりました。 また、YTVI従業員によるタイヤの正しい使い方の紹介やヨコ ハママスコットとの写真撮影を行いました。延べ1,000名の お客さまや子どもたちに啓発活動を行いました。

# 地域と共に発展するため、 多様なコミュニケーションと 地域問題に取り組みます。





# (取り組み実績)交通マナー教室実施率100%

(国内全生産拠点 2017年、単体)



#### 交通安全キャンペーンに参加した方の感想 サッカーイベント

●サッカー選手になりたい息子にとってとても良い機会でした。写真撮影では小さい頃から交通安全も気にするようになりますし、家族の良い思い出となりました。(父親)

#### ショッピングセンターでのイベント

- 赤信号では絶対止まること、バイクに乗るとき子どもも ヘルメットをかぶらなければならないことが分かりました。 (10代女性)
- ●今までよく分からなかったタイヤの交換時期の目安を教えていただき感謝しています。(20代男性)



TOPIC

#### YOKOHAMAまごころ基金



当社は、環境保全や人権擁護な

どの社会課題に取り組むNPOやNGOなどの支援や 災害義援金に役立てる目的で、2016年5月に YOKOHAMAまごころ基金を設立しました。

寄付を希望する従業員が会員となり、毎月100円を一口とし給与天引きにより積み立てを行っています。「社会貢献活動を始めたいが、どうしたらいいか分からない」「時間が無くてボランティアなどに参加できない」という従業員でも気軽に社会貢献活動ができる仕組みとなっています。2018年4月現在、会員数は1,817名となり、これまでに団体支援として7団体11件に合計2,142,000円、災害義援金は5件2,450,977円(現地通貨換算含む)の寄付を行いました。従業員の社会に役立ちたい意欲に応えるため、会社が基金からの寄付金と同額を拠出する「マッチングギフト」を行い、従業員の社会貢献活動をサポートしています。

#### 【これまでの団体支援先一覧】

- ●NPO法人イカオ・アコ
- フィリピンでの植林や3R啓発などの環境関連活動
- 公益財団法人AFS日本協会

高校生による異文化理解のための国際交流活動

#### ●NPO法人グラウンドワーク三島

「水の都・三島」の原風景の再生をめざした環境保全活動や環境 教育活動の実践

#### ●NPO法人チャイルド・ファンド・ジャパン

フィリピンなどで貧困の中に暮らす子どもたちが健やかに成長できるよう支援する「スポンサーシッププログラム」

#### ●一般社団法人JEAN

海洋ごみ問題の普及啓発や川や海の環境保全活動

- •社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団福祉のまちづくり研究所 子どもたちのユニバーサル社会の実現を目指す「小児筋電義手バンク」
- ■認定NPO法人カタリバ(女川向学館)

東日本大震災で被災した子どもたちの学びの場所の提供と教育 支援活動 地域社会と 共に

# 共に生き、ゆるぎない信頼を築きます 〜地域の暮らしに貢献〜



NPOと連携した地域への医療支援 (YTPI)

ヨコハマタイヤフィリピン (YTPI) は、フィリピン政府の10 項目の社会経済政策と、SDGsの「目標3:すべての人に健康と 福祉を」の重要性を認識し、地域社会への直接支援活動に取り組んでいます。

2017年7月、YTPIのボランティアと、医療専門家が医師の補佐を行い、山沿いのタールゲット地区住民へ無料の診察と薬を提供しました。目標の200名を上回る258名の患者を診察することができました。YTPIのボランティアは、主に患者の登録、案内や人員配置などの管理を医師団と共に行いました。日本からの研修生も飲み物の配布等を担当し、地域住民の方々や子どもたちとの交流を深めました。

2017年9月には、サパンバト地区にある小学校と提携して60日間の給食プログラムを開始しました。このプログラムは、特に辺境地域の子どもたちの栄養失調を改善するため、フィリピン保健省の呼びかけに応じて毎年行っています。

YTPIのCSRチームは、対象となった子どもたちにボウル、スプーン、フォークとびん詰めの食品・飲料が入った栄養キットや、マルチビタミンなどを提供しました。また週1回子どもたちの体重を測定するなどして、成長状況のモニタリングも行っています。

YTPIは、子どもたちが健康で快適な暮らしをするための給食プログラムを毎年実施し、今後も地域社会に貢献していきたいと考えています。



#### 近隣の村での女性就業プログラムの取り組み (ATG)

インドの地方に住む女性は、早く結婚してその後は家族の 世話を行うことだけという方が大多数を占めています。

アライアンスタイヤグループのティルネベリ工場 (ATG-TN 工場) では、近隣の村の女性たちにどのような仕事のスキルを身に付けたいのか調査を行いました。その結果、家庭のことを行いながら、家の中でできる仕事として裁縫を身に付けたいとの希望が9割を占めました。ATG-TN工場では、これまで裁縫を行う機会がなかった近隣の村の方に、裁縫の技術が学べる50回のプログラムを検討して作り上げました。2016年に応募を開始し、15名の女性が参加しました。毎回10時~13時に実技を行い、希望があればその後の時間を使って自習や指導も行ってきました。

2017年にも新たに応募のあった15名に対してプログラムを実施しました。現在では、子ども服から女性の肌着、外出用の服まで、家族や親族、そして村の方々の要望に沿った服を作り、収入を得ることができるようになっています。

家庭の中にあっても自らが家族や親族そして村の方々の体型に合った良質な生地や希望のデザインの服を提供したいとの強い思いにより、受講者全員がプログラムを修了しました。 腕のよい参加者の中には、自ら裁縫を教える先生になった方もいます。

中にはATG-TN工場で働く従業員の家族もいますが、共に収入を得ることができ、ATG社への村の方々の信頼も増しています。参加者からは多彩で複雑なデザインの服を作りたいとの希望もあり、対応を検討したいと考えています。

# 地域と共に発展するため、 多様なコミュニケーションと 地域問題に取り組みます。









# く取り組み実績〉 生産拠点におけるコミュニティ活動・対話実施率

100% (2017年、連結)

最低賃金を上回る給与払いを実施した拠点割合 100% (2017年、連結)

#### **VOICE**

#### 女性就業プログラムの参加者



#### プログラムに参加した女性たち

- ・裁縫のことはまったく知らなかったのですが、自分で服が作れると思うと、わくわくして学習の日は欠かさず参加しました。今ではミシンや材料を買って、家族や友達の希望する服を相談して作っています。家事を行う合間にできるのでとても助かっています。
- ●家でできる仕事として裁縫を希望しました。分からないところがあれば、いつも丁寧に教えてもらいました。今まで既製服を買ってきましたが、体型に合わなかったり、いいデザインがなかったので、家族や村の方が喜ぶ服を自分で作れることが楽しいです。
- ・オリジナルの服が欲しいということでデザインのサンプルを作って相談しています。今は足踏みのミシンで丁寧に作っています。将来は電動のミシンを使ってみんなが希望する服ができるようになるといいなと思っています。



デザインのサンプル



#### **TOPIC**

#### 小学校へのトイレの寄贈

ヨコハマタイヤ・マニュファクチャリング・タイ (YTMT) に近いマプヤンポーン小学校では、生徒の親の約8割がYTMTのあるアマタ工業団地で働いています。小学校では工業団地の発展に伴い生徒数が急増し、教室やトイレが不足することになりました。これに対応するため、YTMTは日系企業2社と協力して、2016年4月から小学校の校舎脇にトイレを建設し、同9月に寄贈しました。新たなトイレは男子用、女子用の他、バリアフリーにも対応しています。トイレは子どもたちの他、休日に校庭でサッカーなどを楽しむ地域の方々にも利用されています。

建設に当たり、YTMTは材料費などの寄贈を行うとともに希望する従業員が壁のペイントと装飾を行いました。トイレの周辺には、タイヤでできた花壇を配置したり、壁面にイラストやことわざを従業員自らが描いて装飾したりしました。

マプヤンポーン小学校に対しては他にも2015年にタイヤを利用した遊具を寄贈するなど、継続的に支援を行っています。

この他YTMTでは、地域の人や小学生向けに交通安全教室なども実施しています。こうした活動は、タイ人の従業員が、地域社会で求められることを自主的に考えて行っています。



# 会社概要/財務指標

(2017年12月31日現在)

※第142期より国際会計基準(以下 [IFRS] という。) に基づいて連結財務諸表を作成(移行日2016年1月1日)

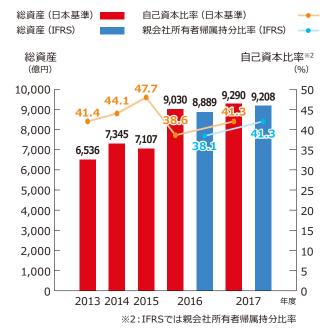
(連結)

	2016年12月 (第141期)	2017年12月 (第142期)
従業員数 (名)	24,610	25,439
対象子会社 (社)	135	137
売上収益 (百万円)	574,048	646,272
税引前利益 (百万円)	24,076	54,891
親会社の所有者に帰属する 当期利益 (百万円)	9,362	39,975

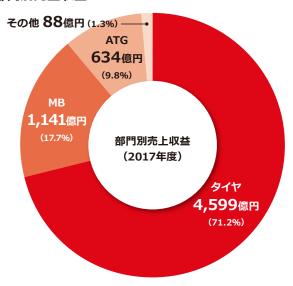
#### 連結売上高・親会社株主に帰属する当期純利益



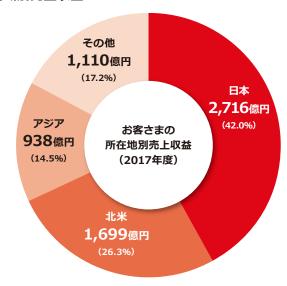
#### 連結総資産・自己資本比率



#### 部門別売上収益



#### 地域別売上収益



# 主な事業展開地域

ヨーロッパ

主な拠点: 13

人数:**1,136** 

北米

主な拠点: 7

人数:**2,720** 

日本

主な拠点:41

アジア

主な拠点:23

数:11,285

数:9,992

中南米

主な拠点: 2

人数:306

(地域別) 主な関連会社

ヨーロッパ	日本	北米·中南米	
ヨコハマヨーロッパ	ヨコハマタイヤジャパン	ヨコハマコーポレーションオブノースアメリカ	
ヨコハマ工業品ヨーロッパ	横浜ゴムMBジャパン	ヨコハマタイヤコーポレーション	
アライアンスタイヤヨーロッパ	アライアンスタイヤグループ	アライアンスタイヤアメリカ	
ヨコハマ工業品イタリア	愛知タイヤ工業	ヨコハマタイヤ・マニュファクチャリング・ヴァージニア	
ヨコハマR.P.Z.	ヨコハマタイヤリトレッド	ヨコハマタイヤ・マニュファクチャリング・ミシシッピ	
ヨコハマロシア	ヨコハマゴム・マリン&エアロスペース	ヨコハマ・インダストリーズ・アメリカズ	
アジア (中国以外)	プロギア	ヨコハマ・インダストリーズ・アメリカズ・オハイオ	
ヨコハマアジア	ハマゴムエイコム	ヨコハマ・インダストリーズ・アメリカズ・メキシコ	
ヨコハマタイヤフィリピン	浜ゴム不動産	ヨコハマエアロスペースアメリカ	
ヨコハマタイヤ・マニュファクチャリング・タイ	ヨコハマピアサポート		
ヨコハマラバータイランド	中国		
Y.T.ラバー	優科豪馬橡膠有限公司		
ヨコハマインディア	上海優科豪馬輪胎銷售有限公司		
アライアンスタイヤ	杭州優科豪馬輪胎有限公司		
ATCタイヤ	杭州優科豪馬橡膠制品有限公司		
ヨコハマタイヤベトナムインコーポレーテッド	蘇州優科豪馬輪胎有限公司		
アジア太平洋ヨコハマ工業品	山東横浜橡膠工業制品有限公司		
ヨコハマ工業品製造インドネシア			

### 外部評価

横浜ゴムはFTSE4Goodシリーズ、FTSE Blossom Japan IndexおよびMSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指数に選定されています。FTSE4Good IndexはESG投資を行う投資家の判断基準として世界的に活用されており、当社は2005年より13年連続で選定されています。FTSE Blossom Japan IndexとMSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指数は、2017年7月3日から年金積立金管理運用独立行政法人 (GPIF) が選定した3つのESG投資指数のうちの2つに選ばれています。



#### FTSE4Goodシリーズ (フィッチー・フォー・グッド)

ロンドン証券取引所グループの完全子会社で指数の構築と管理を行う大手グローバルインデックスプロバイダーであるFTSE Russell (フィッチー・ラッセル) 社が提供するESG投資指数です。



#### FTSE Blossom Japan Index (フィッチー・ブロッサム・ジャパン・インデックス)

FTSE Russell社が提供するESGの対応に優れた日本企業のパフォーマンスを反映する指数です。

Japan

MSCI ジャパンESG

セレクト・リーダーズ指数

MSCI III

#### MSCI ジャパンESG セレクト・リーダーズ指数

世界の主要な投資家にリサーチに基づく指数やポートフォリオ分析を提供する米国企業でESGリサーチの最大手であるMSCI社が作成した日本銘柄を対象とした指数です。

## 2017年度受賞一覧

賞・認証名	主催	受賞事業所	受賞理由
平成29年度資源循環技術・システム表彰 「奨励賞」	一般社団法人産業 環境管理協会	横浜ゴム茨城工場	茨城工場のホース製造用・樹脂モールド材の産廃量削減(リデュース)の取り組みにより、効率的な資源循環を実現したため ※16ページに関連記事を掲載しています。
物流環境特別賞	一般社団法人日本 物流団体連合会	横浜ゴム・浜ゴム物流	タイ・フィリピン・中国のグループ会社からのタイヤの輸入を複数荷主(輸出) とラウンドユースし、CO2排出量の削減、トラックドライバー不足対策、港湾地区の渋滞緩和などに貢献したため
グッドデザイン賞 乗用車用タイヤiceGUARD 6 SUV・ピックアップトラック向けマッドテ レーンタイヤGEOLANDAR M/T G003	公益財団法人日本 デザイン振興会	横浜ゴム	優れたデザイン性や性能、ユーザーの目線に立った利便性などが評価された ため
2017 NTDA Tyre Industry Awards "Industry Marketing Campaign of the Year"	National Tyre Distributors Association (英国)	Yokohama H.P.T. Ltd. (YHPT)	横浜ゴムがオフィシャルパートナーを務めるイングランド・プレミアリーグ「チェルシーFC」のホームゲームにあわせて安全啓発メッセージを電子看板に掲示したほか、YHPTとチェルシーFCのSNSでもメッセージを発信するな
TyreSafe Awards 2017	タイヤ安全協会 「TyreSafe」(英国)		ど、デジタルやインターネットを駆使し、何万人ものサッカーファンにタイヤ の安全性の重要さを訴求したため
国情調査対象プロジェクト認定	中国国務院	優科豪馬橡膠有限 公司 (Y-CH)が支援 している、生態保護 プロジェクト	Y-CHが2011年から支援している、雲南省麗江市老君山自然保護区内の生態保護プロジェクト(山村における森林伐採のみに依存した経済を農畜産物生産に転換し、生態系を保護する)を、中国において最も環境保護の成功が見込めるプロジェクトと認定したため ※国情調査は中国の政策決定に重要な役割を果たす調査。このプロジェクトについては、CSRレボート2017に関連記事を掲載しています。横浜ゴムCSRレボートのバックナンバーは、CSRウェブサイトでご確認いただけます。
いきもの共生事業所®認証取得	一般社団法人「い きもの共生事業推 進協議会(ABINC)」	横浜ゴム平塚製造所	敷地内での定期的な野鳥観察会の開催・記録、敷地内に植樹した樹木の成長に伴う変化のモニタリングとしてのCO2吸収固定量の継続的調査の実施、平塚市内の川の保全活動(水質、水生生物、鳥類および植物のモニタリング、外来植物の除去や清掃活動)、植樹活動、苗木の提供活動といった生物多様性活動への取り組みが評価されたため

# 第三者意見の概要

当意見は、本レポートの記載内容、同社の各担当者へのヒアリング、および現場視察に基づいて執筆しています。



IIHOE〈人と組織と地球のための国際研究所〉 代表者 兼 ソシオ・マネジメント編集発行人 川北 秀人

IIHOE:「地球上のすべての生命にとって、民主的で調和的な発展のために」を目的に1994年に設立されたNPO。主な活動は市民団体・社会事業家のマネジメント支援だが、大手企業のCSR支援も多く手がける。

#### 高く評価すべき点

・生物多様性保全:千年の杜プロジェクト植樹52万本以上、苗木も 社内供給し他社にも提供。多言語ポータルサイトへの進化を期待。

#### 進捗評価しつつ、さらなる努力を求める点

- ・環境負荷削減:環境貢献製品100%達成。再生ゴム使用率2.3%に向上。加硫工程の負荷低減技術開発参画、エネルギーのジャストインタイム化、使用段階での省エネルギー拡大など、課題と手法の可視化徹底に期待。
- ・働き続けやすさ向上: 育児・介護のための各種制度利用者が横浜

ゴムで6.60%到達。介護セミナー継続、従業員アンケート実施。「休みながら働き続けられる」 環境確立に期待。

- ・人的ポートフォリオ拡充:海外現法から執行役員任命。2020年代を見据えた長期目標に基づく本社次世代経営層ポスト明示と育成加速に期待。
- ・障がいを持つ従業員の雇用:国内グループ2.18%到達。販売会社とも連携し、勤続長期化に期待。
- ・従業員の安全:海外拠点重大事故契機の対策進捗。現場安全マネジメントと安全ガバナンスの拡充、進捗詳細報告を求める。
- ・調達先におけるCSR推進:勉強会継続、自主診断結果フィードバック、表彰制度、タイのゴム農家のアグロフォレストリー推進支援。 チェックリストの状況評価詳細化と、交流体制整備に期待。

#### 一層の努力を求めたい点

・コーポレート・ガバナンスとCSR推進体制: KPI設定なし、価値創出ストーリー不明確を憂慮。CSRへの取り組みの必要性を、トップ・マネジメントが自らの言葉で明確・具体的に述べ、2020年代の世界市場におけるビジネスモデルを想定した戦略・体制整備を期待。

・報告やコミュニケーション: 重要拠点で継続的対話機会なし。「ゆるぎない信頼」確立へ非財務情報開示の適時性改善を期待。



アパショナータ.Inc. 代表&コンサルタント パク・スックチャ (Joanna Sook JaPark) アパショナータ:ワークライフバランスとダイバー

アパショナータ:ワークライフバランスとダイバーシティを推進するために2000年に設立。無意識の偏見・ダイバーシティ(多様性)・テレワーク(在宅勤務)など、多くの企業の人材活用や意識改革を支援している。

「未来の思いやり」のスローガンの元、ステークホルダーと連携 し、価値創造を実施しています。

**誰もが働きやすい職場環境**: タスク活動で当事者の声を聞き、ニーズを把握、在宅勤務などの制度を導入したことは、社員の離職率低下につながるものと評価します。今後は社員がやりがいのある仕事を担いながら能力を発揮できる施策を期待します。

また、法定を上回る率の障がい者を雇用し、定期的な個別面談など

安心して仕事を担える環境を提供していることを評価します。一般社 員との交流を深め、多様な人材への理解を進めるために、障がい者の 職域をさらに広げることを期待します。

教育訓練: さまざまな人事研修にCSRを組み込み継続的に啓発していること、取引先とのCSR勉強会で共通認識と良好な関係を深めていることを評価します。 盲学校との合同防災訓練も継続的に実施しており、目の見えない人たちへの避難誘導の配慮を学ぶなど、安全な地域づくりに取り組んでいることも、評価します。

ヨコハマタイヤフィリピン:正社員雇用率が高く、離職率も地域平均 (15%)を下回っています(8%)。女性管理職率も30%、経営層も7 人中ローカル3人・女性2人で、現地の多様な人材が活躍していることを評価します。リーダーシップの多様性は横浜ゴム本体が学べるところです。また、昨年発生した火災を教訓として、定期的に消火・避難訓練を実施し、社員の安全と災害防止に努めています。

「横浜ゴムらしさ」を実践しつつ、次の100年も事業の発展と社会 貢献の両輪の展開に期待します。

#### 第三者意見をいただいて

当社の取り組みに対し、ご評価頂いた点はさらに 深化を図り、ご指摘頂いた点については真摯に受け 止め改善に努めてまいります。

当社グループは、グループ全社で安全総点検、設備改善および安全啓発活動に注力しておりますが、今後も一層の深化を続けてまいります。また、多様な環境の方々が健康・健全に長く働いて行ける職場環境の整備をグループ共通の課題として継続して推進して行きます。「教育の杜」などの活動を通じて、

より一層地域社会との交流を深めて行きたいと思います。

次の100年に向けた持続可能な成長を目指す中期 経営計画GD2020の実行において、CSRスローガン 「未来への思いやり」のもと、コーポレートガバナン スを一層強化し、社会からの信頼をより強固なもの にしていきたいと思います。





#### 横浜ゴム株式会社

〒105-8685 東京都港区新橋5丁目36番11号

#### 広報部

TEL. (03) 5400-4531

#### CSR企画室

TEL. (03) 5400-4705















国連の提唱するグローバル・コンパクトに署名しています。 低炭素社会実現に向けた気候変動キャンペーン「Fun to Share」に賛同しています。 横浜ゴムグループはチェルシー FC のオフィシャルパートナーです。 印刷用紙は、適切に管理された森林で生産されたことを示す FSC®森林認証紙を使用しています。 印刷時に有害な廃液が出ない「水なし印刷」を採用しています。 また、大気汚染の原因となる VOC (揮発性有機化合物) がゼロの植物油インキを使用しています。